

# 公益財団法人 住友財団 ニュース

第27号・2026年4月

## <News>

- 「文化財よ、永遠に2026」開催中(泉屋博古館(京都))
- 主な活動実績(2026年2月~4月)
- 25年度国内文化財維持・修復事業、修復文化財展示事業、助成先決定
- 25年度海外文化財維持・修復事業、その他助成、助成先決定
- 25年度アジア諸国における日本関連研究、助成先決定
- 環境研究助成第2回研究発表会(2月16日)を開催

### 「文化財よ、永遠に2026」開催中です

住友財団と泉屋博古館の共催による修復文化財の展覧会「文化財よ、永遠に2026 次代につなぐ技とひと」が京都の泉屋博古館にて開催中です(6/28迄)。

住友財団にとっては、2019年以来の規模の大きな展覧会となります。展示されているのはすべて住友財団の助成によって修復された文化財で、修復後初披露となるものも複数あります。

修復された文化財を展示しただけでは、その文化財のすばらしさはわかるかもしれませんが、その背景にある修復まで目を向けていただくことはなかなか難しいものがあります。そこで、今回の展覧会では、担当した学芸員の努力もあり、修復に関係する技術や材料、道具を紹介したり、修復に携わった人々についても説明しています。展示室に入るといきなりポロポロの冊子が展示されており、これが永年の保存に耐えられるように修復されることの意義・重要性を感じさせてくれます。

図録についても、一般の展覧会のように写真中心のものとは異なり、修復に関する文章をかなり多めに掲載しているため、読み物として大変面白いものとなっております。

会期は6月28日迄ですので、ぜひ泉屋博古館(京都)まで足をお運びいただければと思います。



選考委員の今津先生(奈良大学学長)にご講演いただきました。キャンセル待ちが数十人も出るほどの盛況でした。



重要文化財「阿弥陀如来坐像」  
平安・大治5年(1130)泉屋博古館所蔵



### 主な活動実績(2026年2月~4月)

2月	25年度 国内・海外文化財 第2回選考委員会開催 25年度 環境研究助成 第2回研究発表会開催
3月	第74回理事会開催
4月	泉屋博古館 特別展「文化財よ、永遠に2026(京都)」、4/4から開催中

## 国内文化財維持・修復事業助成

2025年度の「文化財維持・修復事業助成」は、119件の応募があり、47件が採択されました。昨年は応募116件、採択46件でしたので、応募は3件増加、採択は1件増加となりました。継続案件を除く新規案件の採択は厳しい状況が続いていますが、昨年は新規11件であったところ、今年は16件と5件増加しました。

### 【事例紹介】

北杜市内出土縄文土器 山梨県北杜市所蔵

北杜市には約950カ所の遺跡が存在し、山梨県内でも最も遺跡の多い地域となっています。そのうち約70%が縄文時代の遺跡であり、特に縄文時代中期の遺跡が数多く見つかっています。今回対象となる、顔面把手付土器、口縁肥厚帯土器および水煙文土器も縄文時代中期のものと考えられています。いずれも、複雑な立体造形が特徴的ですが、山梨・長野両県にまたがる八ヶ岳を中心とした地域から出土する縄文時代の優れた造形が表された貴重な土器です。

現状、接合面の接着剤等の劣化により不安定な状況が見られるほか、破片のままになっているものもあり、今後の公開展示等も見据えて全面的な保存修理を行います。



顔面把手付土器の現状の写真(表と裏)。

全面解体したうえで、クリーニングを実施し、切断面・接合面を樹脂強化して接合していく。必要に応じて不足部分を合成樹脂等で充填する。器高は48cm。

## 修復文化財展示事業助成

文化財維持・修復事業助成に関連する新規の助成プログラムとして2024年度に創設された修復文化財展示事業助成の2年目になりますが、応募件数は1件(申請金額150万円)でした。昨年の4件を超える応募を期待していましたが、残念な結果になりました。応募のあった1件は選考の基準を満たしておりそのまま採択となりました。

### 【事例紹介】

助成対象: なら歴史芸術文化村

特集展示「修理完成記念 大和のみほとけ」開催事業

展示会場: なら歴史芸術文化村文化財修復・展示棟地下1階展示室

なら歴史芸術文化村は、文化・地域振興に資する多機能複合施設で、その文化財修復・展示棟では、文化財の修復工房を通年で公開しているほか、そこで修理された文化財の公開も行っています。

本展示は、当財団の助成を受けて同所の工房で修理が行われた平安時代中期の作と推定される木造四天王立像(光堂寺所蔵)を含めた、奈良県ゆかりの仏教美術の名品を集めた修理完成記念の特集展示です。着工から竣工に至るまでの工程を継続的に撮影した映像をもとに制作した記録映像の放映も予定されています。

この展示を通じて、修理内容を振り返るとともに、文化財修理の意義について考える、そのような機会になることが期待されます。



修復前の増長天像  
(木造四天王立像のうちの1軀)

【2025年度助成先 決定】

2025年度の海外文化財助成は、14カ国(文化財の所在国では18カ国)からの31件の応募があり、14件、3,630万円が採択されました。絵画8件、遺跡4件、工芸品2件の構成で、うち日本の美術品が9件、日本以外が5件となりました。継続助成先7件に加えて、今回新規先7件が選ばれました。以下、新規で選ばれた事例からご紹介します。

【事例紹介】

河鍋暁斎筆「達磨図」の修復

米国 ロサンゼルス カウンティ美術館所蔵

対象は、明治21年(1888)、浮世絵と狩野派の伝統的な手法を併せ持つ河鍋暁斎筆「達磨図」。ほとんど墨一色で描かれた幅183.5cmの畳一枚分を超える大振りの掛軸として際立った作品である。

なお、本作品は伊藤若冲、曾我蕭白等の名高い江戸絵画蒐集家エツコ&ジョー・プライス氏のコレクションから2024年にロサンゼルス郡美術館に遺贈されたものである。

現状、図画の表面にはっきりした折れが出来ており、軸周辺の布は破れ、汚れ等、構造上の問題もあり、日本へ移送し2カ年の修復作業を行う予定である。



掛幅一幅 紙本墨画淡彩 121.5 cm x 183.5 cm  
明治21年(1888)  
photo © Museum Associates/LACMA  
Conservation Center, by Yosi Pozeilov

その他助成

【その他助成先 決定】

海外文化財関連として、修復技術移転を支援するプロジェクトが採択されました。このような支援は、当財団にとって初めてのものです、チャレンジングな助成と言えます。以下、助成内容をご紹介します。

クラクフ国立博物館技術移転支援

ポーランドクラクフ国立博物館

1879年に設立されたクラクフ国立博物館は、ポーランド国内最古、最大の国立美術館。90万点の展示品を所蔵しており、同国内にある12の分館から構成される。その中で日本美術技術博物館(Manggha館)は、1920年にポーランド人美術蒐集家のフェリクス・ヤシエンスキ氏がクラクフ市に寄贈した約1万5千点のコレクションの内、日本美術品約6,500点を所蔵しており、その中核は1880年代に同氏がパリで買い集めた約5,000点の浮世絵である。

対象は、クラクフ国立博物館のポーランド人修復師が、同館所蔵の着物を自館にて修復する為、日本の着物修復技術習得を支援するもの。日本とポーランド双方の専門家の渡航・滞在費等の費用を助成する。特に同国で一番有名と言われているヤシエンスキコレクションの着物(写真)の修復を目的としている。ヤシエンスキの着物は、現地では日本の着物として象徴的な価値があり、日本の着物の修復をポーランド人自らが修復することを支援する本助成の意義は大きいと思量する。



ヤシエンスキ氏が寄贈した着物

## アジア諸国における日本関連研究助成

2025年度の助成は、2025年9月～10月に公募し、24の国・地域から1,256件(倍率19.3倍、前年度比365件増)の応募がありました。例年と同様に東アジアからは質の高い申請が多く寄せられ、東南アジアや南アジアからも採択水準を充分クリアする申請が寄せられました。1月の選考委員会では、日本との相互理解に資するかを最重要評価項目とし、研究内容のレベルや独創性などを勘案した上で選考され、3月の理事会にて65件、50.3百万円が採択されました。採択者の国・地域別では、マレーシア12件、中国・インドネシア各11件、台湾7件、韓国6件、タイ5件、インド4件、フィリピン・ベトナム各3件、カザフスタン・モンゴル・シンガポール各1件となりました。採択された研究の中から2件をご紹介します(カッコ内は助成金額)。

- (1) 研究テーマ:『中国における日本の尺八を通じた音楽アイデンティティの構築』(100万円)  
採択者: 呉 国偉 リーズ大学(英国) 言語・文化・社会学部 日本・東アジア研究講師 他2名  
内容: 中国では宋代以降2000年頃まで姿を消していた尺八だが、日本の同音楽紹介をきっかけに同愛好者が急増した。本研究は、彼らの音楽アイデンティティについて考察し、現代中国における尺八文化の受容とその意義を検討する。
- (2) 研究テーマ:『CSRを通じたインクルージョン:マレーシア企業が日本の「障害者雇用」から学ぶこと』(5千ドル)  
採択者: ブリナ・イスマイル マラ工科大学 アルシャッド・アユブ大学院ビジネススクール 上級講師 他3名  
内容: 日本は障害者雇用促進法に基づく包括的な雇用制度により、障害者雇用の分野で世界的なモデルとされている。一方、マレーシアでは依然として課題が多く、障害者雇用率は低水準に留まっている。本研究は、日本とマレーシアの企業を対象に、企業の社会的責任(CSR)の価値観が障害者雇用の実践にどのように影響するかを分析する。

## 環境研究助成 第2回研究発表会 開催

環境研究助成第2回研究発表会を2月16日に開催しました。

選考委員会で助成終了した対象者の研究成果報告書をレビューした中から、将来性のある興味深い研究として研究者に発表の場を設けて直に聞かため、以下7つの研究プロジェクトが選定されました。課題研究から選ばれた堤先生から、環境中に存在するマイクロ、ナノプラスチックが生態系や生体に与える負の影響を標準サンプルを整備して評価に応用可能な研究成果が発表されました。一般研究で選ばれた秋田先生から、レアメタルの1つ、パラジウムを都市鉱山からバクテリアを使って

資源回収する研究成果が発表されました。7名の発表者に対して、各選考委員から、専門分野の異なる研究についても後進育成に対するエネルギーのこもった意見を述べていただき、発表者にとっては、新たな発想や着眼点が生まれる有益な機会となりました。

総括して沖委員長より「皆さんの研究が社会実装されることを目指して欲しい。」と力強く締め括られました。



発表者、選考委員の皆様及び事務局

氏名 (申請時年齢)	所属・役職名	研究テーマ
堤 康央 (53)	大阪大学大学院薬学研究科 名誉教授	生体外微粒子としてのマイクロプラスチックの安全性評価研究
秋田 紘長 (37)	日本大学生産工学部 専任講師	貧栄養耐性細菌を利用した都市鉱山からのパラジウム回収法の開発
石山 央樹 (47)	大阪公立大学 教授	立木の特性に基づく製材の強度推定手法の開発
阪本 浩章 (40)	神戸大学経済学研究科 准教授	気候変動条約の経済分析
江 欣樺 (31)	台湾国立屏東大学 助教	環境保全型農業の技術実装における知識流通の構図: 社会ネットワークの地域間比較研究
堀川 恵司 (46)	富山大学学術研究部理学系 教授	過去1万年間の黒潮大蛇行の発生頻度: 個別個体有孔虫分析による新たな研究展開
松本 光 (30)	九州大学大学院工学研究院化学工学部門 助教	高分子固定化触媒のやわらかさが生む無溶剤下での有機合成プロセスの開発